

ウィーン・フィル
ルネ・スター^ル
ルネ・スター^ル
ルネ・スター^ル

AOI通信

秋号

静岡音楽館倶楽部情報誌
SEPTEMBER 2012 No.67

特集
静岡室内楽
フェスティバル 2012
CONCERT REPORT

AOIゆかりのアーティスト
嶋田慶子さん(ヴァイオリン)

静岡音楽館AOIの
市民会議委員ってどんな人?

シェフ池田の おいしいレシピ



Interview WIENER PHILHARMONIKER RENÉ STAAR

ルネ・スター^ル
(ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 ヴァイオリン奏者)

2006年、静岡音楽館AOIで行われた「アンサンブル・ヴィーン・コラージュ」で来静したルネ・スター氏。今年、再来日し、「ヴィーン・フィルのメンバーたちとの三重奏」ではまた違った魅力を見せてくれることでしょう。公演に先立ち、インタビューしました。

「アンサンブル・ヴィーン・コラージュ」
(2006.12.13)公演の様子

——どのようにしてヴィーン・フィルで演奏されるようになったのですか?

ウィーン・フィルのメンバーとの三重奏 A

10/30 火 19:00 開演(18:30 開場)

静岡音楽館AOI ホール(BF)

全指定 ¥4,500 (静岡音楽館会員 ¥4,050、22歳以下 ¥1,000)
[Pコード: 154-505]

出演 ルネ・スターク(ヴァイオリン)、
ウォルフガング・トムベック(ホルン)、野平一郎(ピアノ)
曲目 L.V.ベートーヴェン: ホルン・ソナタ 第1番
「クリオエル」イタリア op.47
J.ブラームス: ホルン三重奏曲 交響曲 op.40
R.スターク: 「ジャスト・アン・アクシデント?」のエピローグ op.9 ter

*未就学児はご入場いただけません。



©松田真実

庄司紗矢香(ヴァイオリン) ジャンルカ・カシオーリ(ピアノ) デュオ・リサイタル A

11/1 木 19:00 開演(18:30 開場)

静岡音楽館AOI ホール(BF)

全指定 ¥5,000 (静岡音楽館会員 ¥4,500、22歳以下 ¥1,000)
[Pコード: 154-507]

曲目

L.ヤナーチェク: ヴァイオリン・ソナタ
L.V.ベートーヴェン: ヴァイオリン・ソナタ第5番(春) ト長調 op.24
O.ドビュッシー: ヴァイオリン・ソナタト短調
R.シューマン: ヴァイオリン・ソナタ第2番 二短調 op.121

*未就学児はご入場いただけません。



©Rebecca Borozz

©Silvia Lelli

第14期「子どものための音楽ひろば」 子どものためのコンサート

身体が奏でる音 A

11/10 木 14:00 開演(13:30 開場)*15:00 開演予定

静岡音楽館AOI ホール(BF)

全自由 ¥500 *静岡音楽館会員割引はありません。

出演 サウンド・ギア(加藤訓子(打楽器)、鈴木樹哉(リコーダー)、
シュテファン・フッソング(アコーディオン)、
西田美子(ピアノ)、原田敬子(声楽))。

第14期「子どものための音楽ひろば」受講生 より(数名)

曲目 原田敬子: F.フラグメンツ・ピアノコーディオンのための(2012)
(西田美子・シュテファン・フッソング デュオ音楽作品、世界初演)
ストラクチャード・インプロヴィゼーションI-X

~鈴木樹哉の演出作品からインスピレーションを受けた10の音楽 より

*このコンサートは未就学児でもご入場いただけます(チケットが必要です)。

*当コンサートのチケット取扱はAOIのみです。



[主催] 静岡音楽館AOI 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団 TEL.054-251-2200

街のいろんなところで室内楽! 静岡室内楽フェスティバル 2012

10/30 火→11/22 *

[主旨] 静岡音楽館AOI 市民発表者(公財)静岡市文化振興財団
昨年に引き継いで開催される静岡室内楽フェスティバル。
今年はさらに充実した内容でお届けします。
世界屈指のアーティストから今後を担う若手まで、
デュオ、トリオ、カルテットはじめ様々な
アンサンブルによるコンサートが多数開催されます。
ぜひ足をお運びください。

第2回アマチュア・アンサンブルの日♪ A

11/11 木 12:00 開演(11:30 開場)*13:30 開演予定

静岡音楽館AOI ホール(BF)

無料(申込不要)*ただし定員によりご入場をおこなう場合があります。

曲目

アンサンブルによる静岡(フルート、ヴィオラ、チェロ、ギター)、アンサンブル・ブリューム(弦楽アンサンブル)、NKB48(ヴァイオリン二重奏、ピアノ)、オカリナ・アンサンブル「アミコ」、オーケストラ・スラブ(コーラー)、ギター・アンサンブル サウンド・オブ・ドリーム、グループ「希望」(邦楽)、サクソフォン・アンサンブルPICO、静岡県トロンボーン協会、静岡ハムマー・ダルシマー・アンサンブル、ダイアンス(プラス・アンサンブル)、トリニティ・トリオ(ピアノ三重奏)、トロンボーン・アンサンブル・セルジア、トロンボーン・アンサンブル「とろ」、ハママツ プラス アンサンブル、ふもとの風五重奏団(木管五重奏)、フレンズ(マードリン・ギター・アンサンブル)、Por Venir(ヴァイオリン、ピアノ)、Marimbangbang!(錠前打楽器、ピアノ)、美琴音(木管アンサンブル、リコーダー)、mille-feuille(フルート四重奏)、ヤマダ木管五重奏団、ラリレロ(弦楽アンサンブル)、リバティーフルートアンサンブル なすな(フルート三重奏) (50音順)
※このコンサートは未就学児でもご入場いただけます。
※出演者が一部変更になりました。

AOI・レジデンス・クワルテット A

11/17 木 18:00 開演(17:30 開場)

静岡音楽館AOI ホール(BF)

全指定 ¥3,500

(静岡音楽館会員 ¥3,150、22歳以下 ¥1,000)

[Pコード: 154-509]

曲目

松原勝也、小林美恵(ヴァイオリン)、
川本嘉子(ヴァイオリン)、河野文昭(チェロ)
曲目 J.S.バッハ: フーガの技法 BWV1080 より
R.シューマン: 弦楽四重奏曲第1番 イ短調 op.41-1
L.V.ベートーヴェン: 弦楽四重奏曲第8番(ラズモフスキイ第2番)
ホ短調 op.59-2

※未就学児はご入場いただけません。

ブラヴォー・アンコール!

ジャパン・ギター・カルテット A

11/22 木 19:00 開演(18:30 開場)

静岡音楽館AOI ホール(BF)

全指定 ¥5,000

(静岡音楽館会員 ¥4,500、22歳以下 ¥1,000)

[Pコード: 154-510]

曲目 福田進一、村治佳織、大萩康司、鈴木大介(ギター)

曲目 坂本龍一: プレリュード

西村朗: 玉笛

J.ブラームス: 主題と変奏 op.18 (J.ウリアムズ 編)
A.ピアソラ: タンゴ組曲
J.S.バッハ: ブランデンブルク協奏曲第3番 BWV1048 (J.スティーカス 編)

M.ラヴェル: ポレロ(福田進一 編)ほか
※未就学児はご入場いただけません。

「静岡の名手たち」による コンサート D

11/7 水 14:00 開演(13:30 開場)

アカデミ和 静岡市北部生涯学習センター美和分館

無料(定員100名・要申込)

*10/17(水)14:00より受け付(申込締切)。詳しくはお問合せください

曲目 浜松金管五重奏団

曲目

M.アーノルド: 金管五重奏曲第1番

op.73 より 第1楽章

J.ホロヴィッツ: ミュージック・ホール組曲

成田為三: 湾辺の歌

G.ロッシーニ: 歌劇《ウィリアム・テル》序曲

北海道民謡 北海盆歌

L.バーンスタイン:

ミュージカル《ウエスト・サイド・ストーリー》より ほか

[主催・お申込み] 静岡市北部生涯学習センター美和分館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団

TEL.054-296-7122

<http://sgo.shizukacity.jp>



バロック音楽の夕べ D

～キャサリン・マッキントッシュを迎えて～

11/9 金 19:00 開演(18:30 開場)

日蓮宗 感應寺

全自由 一般 ¥4,000

(戸崎庵乃邸バロードの会会員 ¥3,000、学生 ¥2,000)

曲目 キャサリン・マッキントッシュ、三輪眞樹(ヴァイオリン)、

櫻井茂(ヴァイオラ・ダ・ガンバ)、戸崎庵乃(チェンバロ)

曲目 H.J.ペーセル: トリオ・ソナタ ハ長調 Z.808,ト短調 Z.807

A.コレッリ: トリオ・ソナタ ニ短調 op.3-6

J.-M.ルクレール: 《やさしい音楽の気晴らし》第2集 H短調 op.8 ほか

[主催・チケットお取扱い] 音楽音楽会・静岡儿童合唱団

戸崎庵乃邸バロードの会 TEL.054-252-6514

<http://www.ongakuabakai.com>



静岡市葵生涯学習センター(旧 中央公民館)開館50周年・
アイセル21開館20周年記念

静響・弦楽アンサンブル によるコンサート C

11/18 木 13:30 開演(13:00 開場)

アイセル21 静岡市葵生涯学習センター

無料(定員200名・要申込)*10/21(日)必着(多数抽選。詳しくはお問合せください)

曲目 静岡交響楽団弦楽アンサンブル

曲目 W.A.モーツアルト: アイネ・クライネ・ナハトムジーク K.525

J.S.バッハ: 《生よ、人の望みの喜びを》(BWV147)

E.グリーグ: 題曲《ホルベアの時代から》 op.40

J.シュトラウスII世: ワルツ《美しく青きドナウ》 op.314 ほか

[主催・お問合せ] 静岡市葵生涯学習センター 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団

TEL.054-246-6191

<http://sgc.shizukacity.jp>



会

場

の

こ

案

内



Hot ひといきコンサート♪

スーパー・バロック アンサンブル B

10/31 水 12:00 開演 *12:30 開演予定

静岡市役所静岡庁舎新館・ラウンジ(1階)

無料

曲目

鈴木広志(サクソフォン)、

立石潤三(打楽器)、

戸崎庵乃(チェンバロ)

曲目

サルタレッコ

W.A.モーツアルト: トルコ行進曲 (K.331 (300))

スコットランド民謡《美しきドゥーン川の岸辺よ》

F.ザッバ: キング・コング

H.バスコアール: 《ミストゥーラー》(舞)

S.ジョップリン: ラグタイム・ダンス

日本の歌

日本



CONCERT REPORT

日本の響きでつづる 七夕のまつりに

7月7日(土)

梅田英春(民族音楽学者 静岡文化芸術大学教授)

「もしもし、元気にしてる?」「ああ、普通だよ。そっちはどう?」

今、遠距離恋愛中の二人は、うれしさでちよびり上ずった声を携帯電話を通して聴くことができるようになったし、スカイプを通じて、お互いパソコンの画面上でにっこりと微笑み合うことができるようにならった。もちろん「会う」という行為には及ばないかもしれないが、物理的な距離を新たなメディアが少しだけ縮めてくれる時代になった。そんな現代からみると、七夕の神話の中に語られる織姫と彦星の「究極なる遠距離恋愛」は、もはや現実味を帯びない遠い過去の伝説として置き去りにされつつあるのかもしれない。その一方で七夕は、願いごとをしたためた短冊を笹の葉につるす行事としてのイメージが、年々強調されていく気がするのは私の思い違いだろうか。

七夕に開催されたコンサート「日本の響きでつづる『七夕のまつりに』」は、古代から演奏されてきた日本の伝統音楽の表現を通して、「七夕」を当時の日本人がどのように受けとめてきたのかを聴衆に届けかけ、聴衆がそれを自然と再認識していくすばらしいひと時だった。

コンサートの冒頭



を飾った伶楽舎による朝詠《二星》は、平安時代に誕生した伝統音楽の演目の一つで、当時、宫廷の貴族によって歌い、奏でられた音楽である。和漢朝詠集に編まれた織姫と彦星の一夜のせつな出会いを描いた句は、笙、龍笛、楽琵琶による管絃の優雅な伴奏によって初々と歌い上げられた。「逢瀬のつらさを語るうちに夜が白み始め、そこに涼しい風がそよぐ」という短い歌詞は、私たちの五感すべてに訴えかけるような豊かな内容で、そんな涼風とともに彼方へと消えていくかのような、曲の最後の笙と楽琵琶の音の余韻は、胸が締め付けられる大切な切なさを、観客へさきやくように語りかけた。

続く演目は、江戸時代、上方で盛んに上演された人形浄瑠璃の音楽、義太夫節の《杉酒屋》の段である。藤原鎌足や藤我入鹿が登場する大化の改新以後の時代を素材にしながらも、物語には江戸時代、七夕の日に庶民の間で行われた裁縫や織物の上達を願う「乞巧祭」とよばれる儀礼が描かれる。しかし、裁縫の上達よりも身分の違う男性との恋愛成就を、乞巧祭を通して祈願する町屋の娘、お三輪の少しばかり當時としては堅破りに見える振る



撮影:日高真光

静岡音楽館AOIの市民会議委員ってどんな人?③



杉山 共子
(静岡市立大里中学校
音楽教諭)

もともと歌うことが好きでしたが、中学校のときにオーボエに出会い、それから吹奏楽にすっかり夢中になりました。子供の頃は、オーケストラ・プレーヤーを夢見たこともありましたが親の猛反対に掛け断念、でも今は音楽の教員でよかったと思っているので親に感謝ですね(笑)。毎日子どもと接して、子どもの成長に関わることができることの喜びを感じています。今、大里中学校では合唱を誇りとっていますが、合唱を創っていく過程で、声を出すことや、音が合うことの気持ち良さを体感し、仲間と音楽ができた喜びを実感できるような授業にしたいと思っています。子どもたちは合唱祭や吹奏楽部のコンサートなどでAOIのホールをよく使用していますが、美しい響きを体感できるホールなので「AOIで演奏することが楽しい」「何とか上手になった気分」と大好評、演奏者を幸せな気持ちはさせてくれる場所です。もっと気軽に利用する機会が増えれば、大人になってもホールに足を運んでくれるようになると思います。世界で活躍するアーティストと同じAOIの舞台で演奏をしているということが、子どもにとってすごい自信になっているんです。(談)

舞いは、微笑ましくもあり、盲目的で一途な恋をする、いつの時代にもいそうな女性の恋へのひたむきさにも感心させられる。七夕における「願いごとへの祈願」は、こんな時代に誕生していたのだ。四代目竹本綱之助の名演と、鶴澤三寿々の太棹三昧絃の妙技は、聴く者の息をふと止めさせてしまうような浄瑠璃独特の緊張感に満ちていた。

休憩を挟んで最初の演目、琉球古典舞踊《かせかけ》は、旅に出た夫の帰りを待つ妻の想いを、糸を結ぐ単純な動作と待ちわびながら過ぎていく日々を

重ね合わせて演じる琉球古典舞踊の代表作である。十三年間、沖縄の芸術大学で教鞭をとった私にとっては見慣れた踊りではあるのだが、この日の舞台の演目の中に並べられたとき、《かせかけ》が、沖縄版「七夕」を象徴するような舞踊であることに、うかつにも初めて気が付いたのだった。しかし、《かせかけ》の中で踊り手の妻が待ちわびる夫は、いつ戻ってくるかわからない。明日か、それとも一年後なのか……。そう思うと、七夕の遅御などとは比べものにならないような悲しさが、舞踊家志田真木による強く、毅然とした女性を表現するようなたたずまいからにじみ出でてくる。

最後を飾る演目、寺嶋路也の筝



歌《星合曲》は、山田流筝曲の流れをくみつつ、現代邦楽作品らしい筝の独特的な調弦を用い、万葉集や新古今和歌集の中の七夕にかかる歌が使われた静岡音楽館AOIによる委嘱作品であった。夜が明け行く中、別れ行く二人の場面を朗々と歌う演者、草間路代の指から繕り上げられる多様な筝の奏法と音色は、織姫と彦星の流れ動く微妙な心の葛藤を描くかのようで、実に聞こえたのある演奏だった。

オーケストラのパフォーマンスでは、指揮者の指示で曲が終わるや否や、割れんばかりの拍手がホールを包む。時にはホールのあちらこちらから「ラボー」という叫びのような賛美が拍手の波の中に響き渡る。しかし、日本の伝統音楽はその真逆だ。曲の終わりで音や歌が消えても、聞き手の中ではその曲は終わらない。音の聞こえぬ古池の波紋から水音を味わうかのように、観客は「どこかで響き続ける音」の余韻を聞き逃すまいと必死に耳を、そして心を傾ける。「拍手はしたいのだ。でもそれ以上に、もう少し静けさの中で残り香のような音を味わってみたい」。客席の人々は一様にそう思っていたはずだ。

日本人があわただしい現代社会の中で忘れかけている七夕の伝説。この日の聴衆はこのコンサートを通じて、日本人がたどってきた七夕への想いを再認識し、織姫と彦星との一時の出会いに夢見心地にさせられたに違いない。そして、聴人かの観客は帰り道、脳裡に残影のように響く演目の余韻を味わいながらこう思ったのではなかろうか。「遠くにいるあの人に会いたい。そしてそんな願いが7月7日の今晩ならばかなうかもしれない」と。あの夜の私がそうであったように……。

撮影:日高真光

記念すべき第1回オーディションに合格されました。その時の様子や思い出をお聞かせください。

当時、私はまだ大学を卒業したばかりでしたので、少しの時間でも人前で演奏できる機会を持てることがとても貴重でした。オーディションはもちろん緊張していましたね…(笑)。でも、自分の出身地に新しく立派なホールが建って「どんなホールかしら?」とわくわくしていました。オーディションに合格できてとても嬉しく、本番にむけてレッスンをうけたり夢中で練習したことをとても懐かしく思います。

今年4月29日に、ご自身のリサイタルを開催されました。地元でのコンサートはいかがでしたか。

静岡でのリサイタルは今年で11回目でした。東京藝術大学卒業後に青島ホールで開催したのが始まりですが、NHK交響楽団に入団してわりとコンスタントに続けてきました。自分では、学生の時に人よりもんびり構えていた分を補うような気持ちで続ける部分も大きかったです。演奏家としてひとつずつステージに立つことの意味合いを今はとても大きく感じています。やるからにはたくさんのお客様に聴いて楽しんでもらいたいと思いますので、まずプログラムを考える時点から真剣に悩みますね…。普段のオーケストラに加えて、大学での仕事やいろいろな活動の合間に鍵を解いて準備をしなければならないので毎年続けるのは本当に大変なのですが、いつもお客様の温かい雰囲気に応援して頂いています。地元の方々に「また来年きてよ!」と声をかけられると、本当に嬉しいです。なによりの楽しみになります!

現在NHK交響楽団のメンバーとしても活躍されていますが、オーケストラで演奏するとき心がけていることを教えてください。

まずNHK交響楽団のメンバーとしてオーケストラでの仕事が、私の音楽家としての核となっています。N響にくる素晴らしい指揮者や演奏家と音楽を作り上げていく過程から本番までの時間を共にできることは、ヴァイオリニストとしての私にとってとても恵まれたことだと思います。入団したての頃は、今よりも弾き方やオーケストラの中での表現の仕方等、いろいろ悩んだり…、思うようにいかなくて試行錯誤もたくさんしていました。なんとか成長したいと常に考えていました。この10年近くの間にはL・ショビーラー先生をはじめ、プライベートで素晴らしい先生にレッスンをして頂いたり…、他にもそのような方と室内楽などで演奏と一緒にさせて頂いたり、オーケストラ以外での色々な経験を積むことでオーケストラの中での演奏スタイルも自分なりに少しづつ見えるようになってきました。普段オーケストラで担当しているセカンド・ヴァイオリニンは、隠役だったり時には職人のようです。でも気づくと主役にも…(笑)。本当に色々なことができないといけないので、ある意味とても楽しいお仕事かもしれません。ソロでの演奏も室内楽もオーケストラも全て繋がっているので、自分の経験したことの点と点がうまく繋がっていくこと、また新たな発見をしていくようにアンテナをはることを心がけています。

今日は、秋にぴったりの食材、秋刀魚を使ったレシピをお届けします。脂ののった秋刀魚はそれだけで食欲をそそられますね。

桃色秋刀魚



[材料] ·秋刀魚 3本 ·パック入りの醤油 3~4パック ·酒 ·味噌 ·砂糖 ·香り用のネギ ·しょうが ·鷹の爪(無くても良い)

AOIゆかりのアーティスト

AOIが実施する若手音楽家の発掘・支援プログラム「静岡の名手たち」。その第1回オーディションに合格し、現在はNHK交響楽団の楽員としても活躍されているヴァイオリニスト、嶋田慶子さんにお話を伺いました。



嶋田 慶子さん
(ヴァイオリン)

これまで共演された音楽家で、特に印象に残っている方をお教えください。

アンナ・トモワ・シントウさん。彼女はカラヤンに信頼を寄せていた歌手ですが、一緒に演奏して舞台の上で涙があふれて止まりませんでした。とても心が熱くなり感動しました。もう一人はシャルル・デュトワ氏。デュトワさんは、現在N響の名誉音楽監督ですが、いらした時にはよく声をかけてくださったりとても明るくフレンドリーに接してくださいます。入団したての頃から私が真剣になりすぎて周囲にしわ寄せを寄せながら弾いていると、わざと肩間にしわを寄せて同じような顔をして目があうとニコッと笑いかけてくれます。新人の頃にはついていくのに必死で、今より本当に心のゆとりがなかったので、以前のそのような顔の映像がテレビ等で出ると恥ずかしいですが、よい思い出です。そのほかにおいても、演奏中には指揮者とここぞ!という時に目があうと、オーケストラを後ろから盛り上げるぞ!と思えたり、現場でのやりとりはとっても楽しいですしつつが印象に残りますね。

今年12月、「静岡の名手たち」アンサンブルが結成され、今後本格的に始動します。アンサンブル創設にあたっての抱負をお聞かせください。

初めてお話を伺った時に、静岡出身の優秀な演奏家が増えてきたからこそできる素晴らしい企画だと思います。たくさんのお客様に音楽を楽しんで頂けますように、微力ながら私なりに力を尽くしたいと思っています。静岡では主に自分のリサイタルでの演奏を続けておりましたので、このようなアンサンブルと一緒に演奏させて頂けることを私自身もとても楽しみにしています。



ありがとうございました。
コンサートを楽しみにしています。

1. わたをとり、頭を落とした秋刀魚を、4~5等分に箇切りに。

2. 圧力鍋を使い、通常の煮物を作るように、骨が柔らかくなるまで煮る。*調味料はお好みで(濃い目がいいと思います)圧力鍋がなければ、コトコトと骨が柔らかくなるまで煮る。

3. 煮あがったら、蓋をとり、汁を煮詰める。*秋刀魚を皿に取り出して、汁だけを煮詰めても良いでしょう。(煮詰めた汁に秋刀魚を戻す)

4. パック入りの醤油の袋を開封せずに揉み、出来るだけ細かくする。*袋から出して、すり鉢を使っても良いでしょう。

5. 煮あがった秋刀魚1個1個に衣をつけるように、まんべんなく醤油粉をまぶす。これで桃色秋刀魚になる。

6. 骨を重ねるように盛る。
7. 子供も、おばあちゃんも、大喜び!!

シェフ池田のおいしいレシピ



池田直樹
バストイラン歌手
元・静岡市役員
AOI公演会議委員

